



山本通先生近影

山本通先生退職記念号に寄せて

経済学部長 戸田 龍介

山本通先生は、2017年3月31日をもって本学を定年退職され、同年4月1日付けで本学名誉教授とされました。

先生は一橋大学経済学部を卒業し、同大学経済学研究科に進学され、修士・博士の両課程で西洋経済史を専攻されました。その後、同大学助手を経て、1976年に本学経済学部に着任され、以来41年にわたって本学部での研究と教育に携わってこられました。

先生の専門は経済史、経営史、西洋史、さらには社会学にも及び、イギリスにおける工業と宗教の関係性や労務管理思想といった、複眼的な視点を必要とする研究業績を数多く出版・公表されてきました。なかでも、先生が定年を迎える2017年3月に上梓された『禁欲と改善－近代資本主義形成の精神的支柱』（晃洋書房）は、学部生時代を合わせると、およそ半世紀にも及ぶ先生のご研究の成果の集大成といえるものです。このような精力的な研究活動は、経済史・経営史・西洋史の各分野で高い評価を受けています。

また、先生の研究活動でもう一つ特筆すべき点として、西洋経済史学への貢献が挙げられます。執筆者の一人として先生が多くの章を担当された、1995年刊行の『エレメンタル西洋経済史』（英創社）と、その後継書である2012年刊行の『エレメンタル欧米経済史』（晃洋書房）は、西洋経済史の代表的な教科書の一つとなっています。こうした教科書の執筆は、学術研究書・論文と同様かそれ以上の労力を要する作業で、幅広い知識と高度な専門的知識がなければ不可能なものです。ここからも、先生の顕著な学術的貢献をみてとることができます。

先生は、研究および教育の領域だけでなく、大学や学部運営の面でも多大な貢献をされてこられました。第二経済学部長、経済学部長、評議会評議員などの教学の要職に就かれ、本学および経済学部の発展に寄与されてきました。

先生は定年退職後も、旺盛な研究意欲を維持されているとかがっております。この点は、本号にも玉稿を投稿されていることに現れていると思われます。今後もご自愛をされ、益々のご活躍を祈念する次第です。

山本通先生 略年譜・著作目録

学歴・職歴

- 1970年3月 一橋大学経済学部 卒業（経済学士）
- 1972年3月 一橋大学大学院 経済学研究科 経済史専攻 修士課程修了（経済学修士）
- 1975年3月 一橋大学大学院 経済学研究科 経済史専攻 博士課程単位取得後退学
- 1975年4月 一橋大学 経済学部 助手（至1976年3月）
- 1976年3月 神奈川大学経済学部専任講師（至1978年3月）
- 1978年4月 神奈川大学経済学部助教授（至1985年3月）
- 1979年4月 一橋大学 国内研究（至1980年3月）
- 1985年4月 神奈川大学経済学部教授（至2017年3月）
- 1988年9月 ロンドン大学およびマンチェスター大学 在外研究（至1989年11月）
- 1991年4月 明治学院大学経済学部非常勤講師（至1993年3月）
- 1993年4月 一橋大学社会学部非常勤講師（至1994年3月）
- 1993年4月 相模女子大学学芸学部非常勤講師（至1995年3月）
- 1994年4月 横浜国立大学経済学部非常勤講師（至2003年3月）
- 1995年7月 一橋大学博士号（社会学）取得
- 1996年4月 明治学院大学経済学部非常勤講師（至1997年3月）
- 2001年4月 学習院大学経済学部兼任（非常勤）講師（至2005年3月）
- 2005年4月 神奈川大学経済部長兼第二経済学部長（至2007年3月）
- 2014年4月 神奈川大学評議会評議員（至2016年3月）
- 2017年3月 神奈川大学定年退職

著書

- ノーマン・コーン『魔女狩りの社会史』（訳書）岩波書店，1983年
- 『キリスト教人名辞典』（共著）日本キリスト教団出版局，1986年
- バリー・トリンダー『産業革命のアルケオロジー』（訳書）新評社，1986年
- 『イギリス革命と千年王国』（共著）同文館，1990年
- Education and Training in the Development of Modern Corporation.*（共著）東京大学出版会，1993年
- 『近代英国実業家たちの世界：資本主義とクエイカー派』同文館，1994年
- 『エレメンタル西洋経済史』（共著）英創社，1995年

- 『社会史の魅力—神奈川大学評論叢書7—』(共著) 御茶の水書房, 1995年
- 『教会(近代ヨーロッパの探究③)』(共著) ミネルヴァ書房, 2000年
- ロバート・フィッツジェラルド『イギリス企業福祉論』(訳書) 白桃書房, 2001年
- 『イギリス革命論の軌跡: ヒルとトレヴァー=ローパー』(共著) 蒼天社, 2005年
- 『外国経営史の基礎知識』(共著) 有斐閣, 2005年
- 『西洋史の新地平』(共著) 刀水書房, 2005年
- 『日本マックス・ヴェーバー論争—「プロ倫」解説の現在』(共著) ナカニシヤ出版, 2008年
- 『エレメンタル欧米経済史』(共著) 晃洋書房, 2012年
- 『英国福祉ボランティアリズムの起源: 資本・コミュニティー・国家』(共著) ミネルヴァ書房, 2012年
- 『禁欲と改善—近代資本主義形成の精神的支柱』 晃洋書房, 2017年

主な論文

- 「初期クェーカーの階級構成について」『一橋研究』第23号(1972年)
- 「J・ネイラーにおける「社会的正義」と黙示録的待望」『史学雑誌』第84編第3号(1975年)
- 「放浪の予言者と在地的指導者」『イギリス史研究』第23号(1975年)
- 「イギリス革命と千年王国主義(上)(下)」『途上』(思想とキリスト教研究会)第8,9号(1977, 1978年)
- 「クェーカーの経済倫理について(上)(中)」『商経論叢』第14巻第3・4号(1979年), 第15巻第1号(1979年)
- 「プリストルのジョージ・ビショップについて(一)(二)」『経済貿易研究』第6号(1979年), 第8号(1981年)
- 「後期イギリス・クェイカー派研究序説(上)(中)(下)」『商経論叢』第19巻第1号(1983年), 第19巻第2号(1983年), 第20巻第1号(1984年)
- 「書評: 村岡健次, 川北稔編著『イギリス近代史—宗教改革から現代まで—』」『歴史学研究』第566号(1987年)
- “From Quakerism to Unitarianism: The Case of William Rathbone the fourth”『商経論叢』第25巻第3号(1990年)
- 「19世紀英国におけるクェイカー実業家たちとキリスト友会」『社会経済史学』第57巻第3号(1991年)
- 「19-20世紀イギリスの職業教育と技術訓練」『神奈川大学評論』第11号(1992年)
- 「20世紀初頭英国クェイカー派の経済経営思想についての二つの資料」『経済貿易研究』第18号(1992年)
- 「20世紀前半英国のクェイカー実業家たちの経営理念」『商経論叢』第28巻第1号(1992年)
- “Quaker Businessmen and the Society of Friends in Nineteenth-Century England”, *Economic Re-*

view (Kanagawa University The Institute of Economics and Trade) No.2 (1994)

「英国クェイカー派の職業倫理と経済生活」『商経論叢』第30巻第2号(1994年)

「書評：ロバート・F・ウィアマス著，岸田・松塚・中村訳『宗教と労働者階級』」『社会経済史学』第61巻第5号(1996年)

「幕末と明治初期の外国貿易商社と横浜商人—コーンズ商会研究のためのノート—」『商経論叢』第32巻第1号(1996年)

「書評：熊谷次郎『イギリス綿業自由貿易論史—マンチェスター商業会議所1820-1932—』」『経済研究(一橋大学経済研究所)』第47巻第4号(1996年)

「英国ガス産業史についての覚書き—労使関係を中心に—」『商経論叢』第35巻第2号(1999年)

「書評：P・ハドソン著，大倉正雄訳『産業革命』」『経営史学』第35巻第3号(2000年)

「鷺尾勘解治の経営理念—別子銅山における労務管理と「地方後栄」—(上)(中)(下)」『商経論叢』第37巻第2号(2001年)，第37巻第3号(2002年)，第37巻第4号(2002年)

「「人的資源の教育・訓練の比較史」のための研究ノート：イギリスと日本」『商経論叢』第38巻第4号(2003年)

「書評：羽入辰郎『マックス・ヴェーバーの犯罪—「倫理」論文における資料操作の詐術と「知的誠実性」の崩壊—』」『社会経済史学』第69巻第4号(2003年)

「M・ヴェーバーの「倫理」テーゼを修正する(上)(中)(下)」『商経論叢』第39巻第4号(2004年)，第40巻第1号(2004年)，第340巻第2号(2004年)

「B・シーボーム・ラウントリーの日本滞在記(1924年)：ラウントリー社と森永製菓の資本提携の企画について」『商経論叢』第41巻第3・4合併号(2006年)

「B・シーボーム・ラウントリーと住宅問題」『商経論叢』第43巻第2号(2008年)

「書評：ピーター・バーク著，長谷川貴彦訳『文化史とは何か』」『社会経済史学』第75巻第1号(2009年)

「ヴェーバーの「儒教とピューリタニズム」論文に関する一考察」『商経論叢』第44巻第3号(2009年)

「アングリカン広教主義における科学と社会—ジェイコブ・テーゼをめぐって—」『商経論叢』第45巻第4号(2010年)

「書評：坂巻清著『イギリス毛織物工業の展開：産業革命への道』」『経営史学』第46巻第2号(2011年)

「書評：坂本和一著『近代製鉄業の誕生：イギリス産業革命時代の製鉄業—技術・工場・企業—』」『経営史学』第46巻第3号(2011年)

「産業革命の知的起源：「科学的文化」と「産業的啓蒙主義」」『商経論叢』第48巻第1号(2012年)

「ベンジャミン・フランクリンと産業的啓蒙：幸福のための改善」『商経論叢』第49巻第2・3合併号(2014年)

vi 商 経 論 叢 第 53 卷 第 4 号 (2018. 8)

「近世イングランドの宗教と教会」『商経論叢』第 49 卷第 4 号 (2014 年)

「書評：湯沢威『鉄道の誕生—イギリスから世界へ』」『経営史学』第 49 卷第 3 号 (2014 年)

「イングランドの工業化と宗教：再検討」『商経論叢』第 50 卷第 3・4 合併号 (2015 年)

「救済予定説とプロテスタントの職業倫理」『商経論叢』第 51 卷第 1 号 (2015 年)

「新しい「ピューリタン」像について」『経済貿易研究』第 43 号 (2017 年)